令和７年度　岡山県立岡山芳泉高等学校　学校評価書

校長　　丸山　浩

１　自己評価

Ⅰ　評価結果（別紙参照）
Ⅱ　分析・改善方策（別紙参照）

２　学校関係者評価委員

吉利　宗久（学校評議員）	森本　宏子（学校評議員・ＰＴＡ役員）
金田ゆかり（学校評議員）	大橋　聡美（ＰＴＡ役員）
三木　直子（学校評議員）	馬場　和子（ＰＴＡ役員）
黒田　和子（学校評議員）	村上　千佳（ＰＴＡ役員）
大澤　和弘（学校評議員）	

３　学校関係者評価

今年度、ＤＸハイスクール事業２年目として、生成ＡＩを授業や探究活動から教職員の校務まで幅広く積極的に導入し、大きな成果を上げている点は高く評価できる。特に、生徒の生成ＡＩ・一人一台端末の活用に対する満足度が非常に高く、情報の収集や分析、論文の推敲等に有効活用していることは、今後のデジタル時代を生き抜く力の育成に繋がる。また、探究活動における外部コンテストへの積極的な参加や国際交流への参加は、生徒の視野を広げ、自信を育む貴重な機会となっている。今後は、オンライン学習サービス等の活用率向上に向けた具体的なアプローチや、探究活動におけるプレゼンテーションスキルのさらなる深化に期待したい。

教育活動全般においては、スクール・ポリシーに掲げる３つの力（主体的に行動する力・多様な人々と協働する力・新しいものを創造する力）の育成を軸に、生徒の主体的に授業に取り組む姿勢が学校自己評価アンケートで高い評価を得ていることは、教職員による継続的な授業改善の成果と言える。また、生徒の校内美化や挨拶の励行の意識が向上していることなど、高校生活全般を通じた生徒の人格的な成熟が図られている。一方で、登下校を含めた安全指導の徹底や、教職員の多忙感解消に向けたさらなる働き方改革など、早急に検討・対応すべき課題もある。

以上のように教育活動を通じて、生徒が主体的な学びや充実した学校生活を送ることができている。今後も、各分掌における業務の精選・効率化を行い、教員が生徒にしっかり向き合える体制を整えることで、生徒や保護者、中学生が魅力的に感じる学校であり続けてほしい。

４　来年度の重点取組

生徒が主体的に学習できるような授業改善を引き続き行う。また、生成ＡＩの効果的な活用による研究及び実践を更に進め、学校全体で共有を図る。また、安全・安心で快適な学校づくりに向けて、生徒の交通ルールや生活マナーの向上に加え、ＳＮＳの適切な利用に向けた取組を強化する。これらの取組を進めるとともに、生徒が主体的に学校生活を送れるよう教育活動を充実させ、魅力ある学校づくりを進めるとともに、業務の精選等による働き方改革を一層進める。